

## 2-1 グラフを基に、分かったことを的確に書く 正答率 46.1%

一 高野さんは、「1 成果」について（図1）を用いて書こうとしています。A の中に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました
- 2 五月の結果より減り、四十パーセント以下になりました
- 3 五月の結果より増え、六十パーセントをこえました
- 4 五月の結果を上回り、十パーセント程度になりました

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起き朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級のみんなに伝えることになりました。次は、高野さんが書いている【報告文の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告文の一部】

○「早ね早起き」活動のまとめ

1 成果

アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動が成果を上げていることがわかりました。

（図1）のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができていないとはいえませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時までに寝る人の割合が

A

。

その理由として、（表1）から、「成長に大事な睡眠を十分に取るために、夜十時までにはねましよう」という保健室の先生のお話がみんなの心に残ったのだと考えます。他にも、毎日を動かすように、体育がない日にクラスで外遊びを行う活動や、「健康せんげんカード」に早ね早起きができたらを記録する活動を行ったこともあげられます。

（図1）

次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。

対象	夜9時より前	夜9時から10時より前	夜10時から11時より前	夜11時より前
※全国平均	5.6	35.9	39.7	13.2
6年1組 (5月)	5.1	25.6	48.7	12.9
6年1組 (11月)	10.3	53.8	25.6	7.7

（※全国平均は、文部科学省「平成24年度家庭教師の総合的保護に関する調査研究—睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立への関係性に関する調査—」に基づく。）

### 問題の趣旨

グラフを基に、分かったことを的確に書くことができるかどうかをみる。

### 学習指導要領における領域・内容

[第5学年及び第6学年]

B書くことエ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

### 分析と課題

解答類型		割合 (%)
○	3 と解答しているもの	46.1
×	1 と解答しているもの	29.0
×	2 と解答しているもの	15.4
×	4 と解答しているもの	8.5
×	上記以外の解答	0.1
—	無解答	0.9

今回の結果からは、グラフを基に、文章と関係付けながら、分かったことを的確に書くことに課題があることが分かる。

この問題を解くには、まず、報告文を読み、書き手が〈図1〉を使ってどのようなことを述べようとしているかを理解する必要がある。

【報告文の一部】

〈図1〉のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができるとはいえませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時まででねる人の割合が、A。

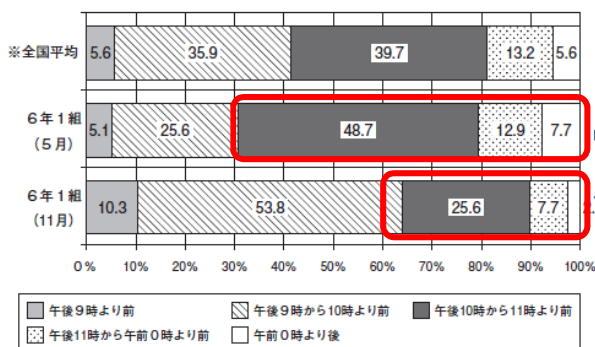
【報告文の一部】を読んで押さえるべきポイント

書き手は「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が半年間の活動後はどう変化したのかを述べようとしている。

続いて、〈図1〉を読む必要があるが、その際のポイントは次の点である。

〈図1〉

次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。



〈図1〉を読む際のポイント

① 「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合は、グラフのどの凡例を見ると分かるのか。

「■ 午後10時から11時より前」と「▨ 午後11時から午前0時より前」と「□ 午前0時より後」をあわせたもの

② 「半年間の活動後」はどのグラフとどのグラフを見れば分かるのか。

「5月」と「11月」のグラフの変化

これらのポイントを押さえて読むことができれば正答することができると思う。

この問題において多かった誤答は、選択肢1の「五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました」を選んだもので29.0%であったが、これは、【報告文の一部】にある「半年間の活動後には」という言葉に着目せず、「夜十時まででねる人の割合」という言葉だけに着目し、5月の結果における「午後9時より前」と「午後9時から10時より前」のそれぞれの数値を足したものが答えであると判断したものであると考えられる。

質問紙調査との関連

(66) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
設問2-1 回答状況別の正答率 (%)	48.9	47.0	42.9	37.7

国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童ほど、グラフを基に、分かったことを的確に書く設問の正答率が高くなる傾向がある。

指導のポイント

○ 図表やグラフを基に分かったことを的確に書く指導を充実させましょう。

図表やグラフなどから分かったことを書いたり、それらを用いて自分の考えが伝わるように書いたりするためには、まず情報を正しく読み取る力、そして必要な情報について適切な言葉を用いて記述する力が必要です。これらの力を付けるためには、算数科において、基本的な表やグラフへの表し方、読み方をしっかりと指導するとともに、図表やグラフが何度も出てくる社会科や理科などにおいて、正確に読んだり書いたりする指導を充実させていくことが必要です。そして国語科では、図表やグラフから読み取ったことを的確に表現する言葉や書き方について指導していくことが大切です。

なお、国立教育政策研究所の「平成28年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」には、目的や意図に応じ、自分の考えが読み手に分かるように書く指導事例が掲載されています。それらも参考にして授業改善を進めていきましょう。